

かうまつりなりにたる、きこしめしつべしやとかきつけて、ちいさきこがねのなりひさごを奉り、きしのあしおり物にたかくもりてそへ奉り給へり。

〔空穂物語 嵐峨の院〕山のほうしばら、わらはべいだして、おかしきかれきひろはせて、おまへに玄ろがねのまがりなどとりいで、をものかしがせ、おまへのくちきにおいたるくさびらどもあつ物にさせ、にがだけなどてうじて玄ろがねのかなまりにいれつゝまいれば、きみたちけうじつ、めしそへつゝまいる。

〔厨事類記〕汁物

依時調美不同也、或供鳥臚汁、或供鯛汁鱠、然而近代多供鮑汁可爲佳例歟。盛汁器追物中央居之。汁實盛別坏居加之、又供寒汁○或號冷汁

生物中繪略○

承暦四年十月、皇子御著袴、御膳供鳥臚汁。

〔倭訓栞前編十一〕しる汁をよめり、日本寄語に羹云水路と見えたる、庭訓に豆腐羹といふは、豆腐汁辛辣羹といふは辛み汁也。羹湯のみならず、何の液汁にても通じていふ也。

〔貞丈雜記六食〕一汁物と云は、飯にそへたる汁の事也、古書には汁物とあり、

〔大上膳御名之事〕女房ことば

一しる 御しる しるのしたりのみそを、かうの水といふ。

〔庭訓往來〕御齋之汁者、豆腐羹辛辣羹雪林菜并薯蕷腐筍蘿蔔山葵寒汁等也。

〔西宮記九月〕九日宴

吏部記云、延長四年九月九日、裝束如正月七日○中初酒觴數行、賜供御下水魚於殿上群臣、采女二人就御臺盤下、一人取冰魚、一人取汗來授左大臣、大臣取之置臺盤先年式部卿親王下座受之、而今日大臣不動坐、内堅二